

附属病院ご利用のみなさまへ

●医学部附属病院の財務内容など

医学部附属病院の収益構造を見ると、附属病院収益が約268億円で医学部附属病院の業務収益（約366億円）の約73%を占めており、引き続き、附属病院収入の増収が病院経営における重要な課題となっています。

平成20事業年度においては、患者数が前年度に比べ入院で約0.9%減少しましたが、外来で約2.4%増加し、全体としては約1.2%増えていることなどから、収入が約7.4%増えています。損益としては、約13億円の業務損益が計上されていますが、資金の裏付けのない帳簿上の利益約23億円などが含まれています（5ページ参照）。病院経営については、毎年、経営改善係数2%の影響（法人化後、運営費交付金が累積18億円減少）もあり、厳しい環境となっています。

また、受託研究等の外部資金獲得にも力を注いでおり、受託研究等収益は約1億4千万円増となっています。

年度当初の医薬品及び診療材料（たな卸対象品）は約4億円でしたが、期末においては約3億5千万円と約5千万円を削減しており、医薬品及び診療材料の管理の効率化を図りました。また病院収益に対する比率は約1.3%となっています。

●平成20年度の取り組み

■患者アメニティの改善等

医学部附属病院では、患者サービスの観点から患者アメニティの改善等に積極的に取り組んでいます。

平成20事業年度では、南病棟に準個室（4床室）を計5室設置したとともに、患者さんやご家族への診療相談等のために一部の診療科に個室面談室を設置し、プライバシーに配慮しながら十分な時間をかけた相談が可能となりました。

また、医学部附属病院における高度医療の提供内容を広く市民の皆様にご覧いただくため、「オープンホスピタル」を開催し、同時開催の「看護フェア」では、将来医療を担う人材として活躍される方々に向けて、病院で実施している看護の取り組みを紹介しています。

■先進医療および社会貢献の推進

医学部附属病院では、標準的な治療の施行のみでなく、先進医療の推進も重要な使命であり、新たな治療法、新薬の開発に向けて探索医療センター^{*1}が中心となり、研究を支援するとともに、臨床応用のための基盤整備等の充実を図っています。

先進医療の推進として、「医師主導の新薬治験^{*2}」に取り組んでおり、治療法の確立した「肝・肺移植」・「強度変調放射線治療^{*3}」等については、先進医療として実施しています。

また、医師や医療従事者の卒後研修にも力を注ぎ、将来の日本の医療レベル向上^{*4}に尽力しています。

附属病院収入 (単位:百万円)

区分	18年度	19年度	20年度	増減率
附属病院収入	24,519	24,680	26,509	7.4%

患者数 (単位:人)

区分	18年度	19年度	20年度	増減率
入院	371,061	362,849	359,634	△ 0.9%
外来	611,335	622,233	637,378	2.4%
計	982,396	985,082	997,012	1.2%

※上記患者数は本院と保健診療所を合わせたものです。

附属病院セグメント情報 (単位:百万円)

区分	金額
教育経費	142
研究経費	1,163
診療経費	16,641
受託研究費	1,616
受託事業費	29
人件費	14,358
一般管理費	329
財務費用	1,007
雑損	-
業務費用(計)	35,285
運営費交付金収益	6,431
附属病院収益	26,815
受託研究等収益	1,701
受託事業等収益	29
寄附金収益	871
その他	766
業務収益(計)	36,613
業務損益	1,328

※上記業務損益には、資金の裏付けのない帳簿上の利益約23億円などが含まれています（5ページ参照）。

医薬品及び診療材料比率

1.3%

=医薬品及び診療材料(352百万円)

／附属病院収益(26,815百万円)

※年度比較については31ページ参照



看護フェア inオープンホスピタル2008

さらに、医学部附属病院は、京都府のがん診療連携拠点病院として指定されており、がんセンターを設置し、高度ながん医療の提供を行っています。

これらの先進医療を行う基盤整備の一つとして、平成20年9月に放射線がん治療装置「CLINAC-iX」*5を導入しました。また、新病棟（積貞棟）の新営を進めています。

同時に、エイズ治療中核拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院として指定され、診療体制の確保と質の向上を目指しています。

- ※1 院内に設置されている「探索医療センター」においては、全国の拠点的なセンターとして、基礎研究成果を用いた新医療の開発を推進しています。
- ※2 新薬の治験は企業主導でありましたが、平成15年の薬事法改正により医師主導の治験が可能となりました。
- ※3 放射線量の強弱を調整することにより正常組織への被曝を軽減、病変部だけに高線量を照射する治療法です。
- ※4 医師等の養成に関しましては、医学研究科・医学部を中心とする卒前教育に加え、院内に設置している「総合臨床教育・研修センター」が中心となり、医師、薬剤師、看護師、コメディカル等の卒業後教育を推進し、養成に努めています。
- ※5 放射線がん治療装置「CLINAC-iX」は、治療の質を変えずに病変部への照射時間を従来よりも大幅に短縮する新機能を有しています。このことにより身体に優しい放射線治療が提供できます。

●寄附による新病棟（積貞棟）の建設

医学部附属病院は平成11年に外来診療棟が新設されましたが、病棟に関しては一部老朽化や分散という問題があり、新病棟の整備とともに病棟の一元化を図る構想を検討していました。

このたび、山内溥氏（任天堂株式会社相談役）から75億円のご寄附を受けて建設する新病棟（積貞棟）は、この構想実現の第一歩として患者アメニティを重視した高度先進医療・最先端医療を実践するための適切な環境を提供するものであり、複数の診療科の専門医が協力する集学的ながんの治療を行うことを中心とした先進医療病棟として、平成22年5月の開院を目指しています。

なお、医学部附属病院の病棟を寄附により建設することは、国立大学法人にとって初めてのことです。

高度な移植医療

(単位：件)

区分	18年度	19年度	20年度	これまでの実績
脾臓移植	3	0	0	20
肝移植	77	65	64	1,381
肺移植	0	0	4	12

先進医療（高度先進医療）

(単位：件)

区分	18年度	19年度	20年度
インプラント義歯	2	1	1
強度変調放射線治療	54	107	2
顎顔面補綴	—	0	1
眼底3次元画像解析	—	420	平成20年4月から保険適用
超音波骨折療法	—	1	0
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータフルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	—	0	6
膀胱水圧拡張術	—	1	5



放射線がん治療装置「CLINAC-iX」



積貞棟（完成イメージ）